Nepal Blind Support Association

ネパールの視覚障害者を支える会(NBSA)会報
第 28 号 2010 年 10 月
NBSA：http://NBSA.sakura.ne.jp/

主内容：ネパール外務省前の風景/7 月～9 月活動報告/地方に住むネパールの視覚障がい児たち/曼荼羅の世界に浸れるカトマンドゥの日本食レストラン/本日は無礼講/ネパールの詩とパシュパティナート ネパールの民話/ネパールの音楽/スタディーツァーとフェアトレードショップからのお知らせ

ネパール外務省前の風景

もう 10 年以上も前になる。私は急用ができてネパールからドイツに向かうことになった。飛行機のルートなど選んでいるわけにいかず、一番早く到着できる便を選んだ。カトマンドゥ、デリー、ドバイを経由しミュンヘンへと。驚いたことに乗客はネパール人が９割。残りはインド人と私のように国籍が定かでない外国人。ああ、これが噂に聞く中近東への出稼ぎフライトか。今ではもう見慣れてしまったが、カトマンドゥ空港の国際線ターミナルで、額に溢れんばかりの赤い粉、祝福のしるしのティカを塗っているネパール人のほとんどは出稼ぎ労働者と思っていい。新調したスーツには縁起物のマリーゴールドの花輪が幾重も下がっていた。空港では大騒ぎしていた彼らは飛行機が離陸態勢に入ると、とたんに静かになった。ああ、初めてなのか。機内食が配られると彼らはいきなり元気になった。飲むや歌えの大騒ぎ。英語でどちらへ行くのですかと聞かれたので、ネパール語でドイツまでと答えると彼らの顔がぱっと明るくなり、お姉さんも一杯のまないかとネパール語で話しかけてきた。彼らの話によるとドバイで別れ、それぞれカタール、サウジなどに分散されるそうだ。就職先ははっきりと言わない。工場、道路建設、夜警、レストランの下働き。中には本当に就職先が明らかにされないこともあるのだ。
みんな酒が入り大声で歌ったので疲れたのか、そろそろ眠気がさしてきたようだ。眼下にエメラルドグリーンのアラブの海が見渡す限り広がった。ああ、そろそろ到着か。
彼らは空港のターミナルに入ると急に無口になった。私はコーラを買いに売店に走ったが、彼らはちんまりとイスに腰かけているだけ。１本１ドルのコーラは大金だ。そしていよいよ仲間とお別れだ。ああ、ここにはもう祭の太鼓や笛の音が聞こえてこないのだ。
急に目頭が熱くなった。私は急いでトイレに入り思いっきり泣いてしまった。
あれから 10 年以上が過ぎた。彼らのほとんどはネパールに戻って家の一軒でも建てたことだろう。なぜほとんどかと言うと、中にはアラブ人が嫌がる炎天下の道路建設で命を落としたり、ただのコックだった人が戦闘に巻き込まれたり、あるいは最前線に立たされて戦うゴルカ兵だったりして、とうに命を落としている人もいるであろうということだ。

写真：旧王宮の西に移った外務省前。毎日大勢の人がパスポートの申請にやってくる。毎年 10 万のネパール人が出稼ぎに行く。ゴルカ兵を含むネパール人の出稼ぎ労働者はすべての大陸にまたがり、常に 100 万人を下ることはないと言われている。

現地活動報告

７月：定例活動のひとつであるトーキングブックは、様々な小説や大学生レベルの教科書を音声化して貸し出しをしていますが、最近では教科書に要望が高まり、こちらに集中しています。私個人としては様々な文学書などを聞いて教養を高めてもらいたいのですが、ネパールも日本同様文学離れが進んでいるようで致し方ありません。ネパールでは MP3 が普及していないので、携帯電話に教科書を録音して学習に役立てるのがはやっているようです。

８月：７月 31 日に役員会を開きました。議題は今年の盲学童のためのクイズ大会の企画とコストの削減について。今年のクイズ大会はカトマンドゥ盆地以外に、地方のチトワンでも行うことにしました。チトワンには盲学級が設置されている学校が２校あり、教育レベルも高いので今から楽しみです。これまでクイズの出題約 500 問をテープに録音して事前に出場校に配っていましたが、今回はクイズの本を配布し、先生と学童が一緒になってクイズ大会に取り組んでもらうことにしました。他の行事については今のところ計画がありませんが、ネパールでの物価上昇が激しいので、昨年に続き今年も行事を絞り込み、経費節減に努めました。

９月:毎度お騒がせしている隔月の情報誌：タッチの編集は順調に進んでいますが、今度はプリンタ本体が壊れてしまいました。ネパール盲人協会の助けを借りて部品を取替え何とか復旧。本体も部品もすべて外国製品で、財政的にも大きな痛手をこうむりました。しかし、情報にとぼしい地方の読者のことを思うと簡単に休刊や廃刊にすることができません。さっそく作業に入り急ピッチで仕上げを行い、かなり遅れをとりましたが、点字情報誌は９月下旬に発送しました。

●特別事業　第７回子どもの日クイズ大会　　９月 14 日

NBSA のロングラン事業　今年で７回目

今年はカトマンドゥ盆地以外に、西南部チトワンの学校の生徒を交えて競い合いました。このクイズ大会の目的は、「平等な教育の機会さえ与えてくれるなら、障がいを持たされている子も他の子供たちとなんら変わりません」とアピールすることです。それは格差のある地方と都市に住む児童に対しても言えるので、今年はネパール中西部のチトワンから盲学級の児童をクイズ大会に招待しました。チトワンの出場生徒は先生に伴われて前日カトマンドゥ入り。カトマンドゥの繁華街のホテルに１泊し、これもまたよい経験でした。少しでも首都に住む学童と交流の場を持てたらいいなと軽く考えていたのですが、コンテストの結果はなんと初出場、初優勝、しかも高得点。盲学級の先生が毎日大特訓し、またかなり優秀な生徒もいたようです。

主賓に文部省の特殊教育学部の学部長を迎え、クイズ大会出場者全員に賞状を手渡してもらいました。(写真上：小さなトロフィー)

最後に、このような娯楽性を備えた学習方法は本当にすばらしい、次回の催しには当局も何らかのサポートをしたいと述べてくれました。どこまで本気がわかりませんが、政府機関の人にもこのイベントが注目されたのは、大きな前進と言えましょう。

★クイズ大会今年の結果

１位　チトワン、ネパール西南部/２位　ドリケル、カトマンドゥ東部/３位　ラボラトリー、カトマンドゥ盆地/４位　ナムナマチンドラ、カトマンドゥ盆地/５位　アダルシャ、カトマンドゥ盆地

（写真下：クイズ大会優勝チーム）

●滋賀県の点訳ボランティア団体からカセットテープの高速ダビング機械を頂きました。

ネパールまで運んでくださったのは学生国際 NGO　BOAT　（ボーダーレス・アクションチーム）の大学生５人。全員長崎大学の学生さん。10 キロという重いものでたいそう難儀をかけてしまいました。様々な方々からご厚情を賜り感謝に耐えません。頂いたダビング機械は地方の視覚障がい者団体に寄贈させて頂きます。本当にありがとうございました。

さて、BOAT ことボートの学生さんたちは若いのに気合が入っている。彼らの活動趣旨を紹介させてもらいます。「学生国際 NGO ボートは、被災地の復興支援活動や、中央アフリカ共和国の子どもたちへ栄養補助活動などを行っている学生団体です。「学生でも何かできるはず！」と考える学生（長崎大学.長崎県立大学　約 30 人が力を合わせ、国際協力活動に取り組んでいます。目に見える支援活動であり、また本当に現地で必要とされている支援活動であることをめざしています。さらに長崎県のやさしさを世界へ届ける架け橋になりたいと思っていますとのこと。ボートの皆さんの健闘を祈っています。　　（写真はダビング機械の贈呈式。事務所前にて）

地方に住むネパールの視覚障がい児たち　ジュムラの学校にて

ナムナマチンドラ（カトマンドゥ）盲学級教員ブッダ・シュレスタ

（写真はネパールの段々畑）

私がネパール西部ジュムラに行ったのは今年の 3 月下旬から 4 月にかけて。ジュムラの空港に着いた途端、あまりの寒さに身がすくんだ。私が生まれ育ったカトマンドゥはもう夏の準備を迎え、途中乗り継いだネパールガンジは夏。そして目的地のジュムラは標高がぐっと高く 2130 メートル。第一印象は寒い！の一言。ジュムラの街は思いのほか発展していた。人口密度が高く、人の住める場所が限られているのだなぁと実感。軒を連ねる商店街には生活必需品がすべてそろっていた。しかしすべての物資が空輸されるので、物価がものすごく高い。それにしてもすごい風の強さ。女たちは氷のように冷たい水で洗濯し食器を洗う。時々雪や雹が降ってくる。ガンジローバ・ヒマールがとてもきれいに見えるけど、私にここに住めと言われたらたぶん躊躇してしまうだろう。

さて、私がここに来た目的は盲学級の子どもたちに点字を教えること。いったい 10 日間で私は何を教えられるだろうか。実はカトマンドゥを離れるときから心配だった。
大きな学校の中に、視力に障がいのある子どもが通う特別クラスが設けてある。まずはオリエンテーション。私は子どもたちに簡単な点字を教えた。驚くべきことに彼らは一週間でかなり上達した。さらに学校長まで同席して点字を学んだ。権威主義的なカトマンドゥの校長となんという違いだろう。そのうち近所の人たちも盲学級を訪ねてくるようになった。次に私は生活自立訓練を教え、冷たい水で生徒と一緒に洗濯もした。僻地での特殊教育とはどんなものだろうか？来る前までは心配

だったけど、近所の人々がとても優しく子どもたちを見守り育んでいるので、私の心配はすっ飛んだ。皆はつらつとしていて可愛い。
僻地にある学校なのに校長先生は女性で、それはもう大変にアクティブな方。また、親たちがとても熱心で、これまで誰一人中央から特殊教育の教師が来たことがなく、私は大いに歓待された。本当に楽しく、また私にとっても実り多い 10 日間でした。ああ、ジュムラにはカトマンドゥにはとうに無くなったコミュニティーがまだあり、障がいのある子もない子も一緒に育っていくのだなと思いました。

仏画と曼荼羅の世界に浸れるカトマンドゥのギャラリーレストラン

ロータスはネパール唯一のギャラリーレストラン。場所はカトマンドゥのジャタ。土産物やブティックが立ち並ぶ商店街にひときわ目立つ重厚なネワール調のビルの２階にあります。店長のカズさんはシルクロードの仏画に惹かれ、あちこち放浪した末ネパールに定着。仏画や曼荼羅美術の才能のある若い芸術家を育てる傍らレストランの経営もしています。メニューは現地の食材を使った日本的なものが多くボリューム満点。また、室内に流れる BGM も落ち着いて食事ができるのも良い。先日私が訪問したときはカンターベルがフロアーに流れていてうっとり。しばしカトマンドゥの騒音を離れて星の世界に迷い込んだ気がしました。

★　ついでにこちらもご紹介。
コーヒー専門店千種（ちくさ）。本格的に旨いコーヒーが飲みたくなったら千種に直行してください。この千種は名古屋出身のオーナーがつけた前です。

（写真左：ギャラリーレストラン゛ロータス）
（写真右：コーヒーハウス゛千種）

本日は無礼講！ゆかいなお祭ガイジャトラ

８月 25 日はネパールのお盆。むかしむかし息子を亡くした王妃が悲嘆にくれ病気になりました。すこしでも王妃を笑わせようと誰かが牛の仮装をして、おどけてみせたのがこの祭の始まり。
子どもたちが牛の仮装をして街を練り歩きます。ところがどういうわけか知りませんが、現在はおとなも子どもに混じり思い思いの仮装をして自己アピールしたり、政治家を風刺する仮装や寸劇が行われるようになりました。同性愛ご法度のネパールでレズやホモが街頭で踊ったりするのはなんか奇異な感じですが、毎年ウケています。今年の大ヒットはネパール共産党毛沢東のプラチャンダことダハル書記長の仮装でした。時は暑さが去り行く 8 月後半。来年は、どうです？あなたも女装、男装で参加しませんか。

写真　ガイジャトラのお面をかぶった子ども

ネパールの詩　　遠い声　ドルガ　ラール　シュレスタ選詩集より

ある日

ある日　夢の中で

あゝ　私は死んで横たわっていた

朽ちかけた悲しみの毛布に包まれて

誰かが私の上にサフラン色の布をかけ

火葬場へと運んで行った

やがて私の肉体は煙に包まれた

湿った干し草が煙を上げて燃えるがごとく

しかし　あゝなんということか

私の周りには誰一人いなかった

私の為に泣いてくれる鳥や虫さえも

自らを焼き尽くす炎を凝視し

我を忘れ　無我夢中で

私はひとり号泣した

その時　私は見たのだ

あなたがそばにやって来て

涙を二筋流すのを

それは許しのしるしだった

あゝ　まさにその瞬間だった

もう一度生きなおしたいという

強い衝動に駆られたのは

ほんの一瞬だったけれども

翻訳　藤井正子

パシュパティナートの火葬場風景

初めてネパールを訪れた時、一番衝撃的だったのがパシュパティナートの火葬です。遺族や観光客に見守られながら火葬された遺灰は、バグマティ川に流され、地球と一体になっていきます。墓を作らないヒンドゥ教徒の葬儀ですが、人間も地球上の一生物に過ぎないことを再認識し、これが一番自然だと感じました。でも同時に、泣き伏すご遺族とカメラ構える観光客に矛盾を感じてしまいました。

（希志子）

NBSA 読者の人気者　ネパールの民話

●ネパールの民話　第 15 話　カバハの物乞い

昔、カトマンドゥの南の都市パタンのゴールデンテンプルにお勤めしていたカバハのお坊様が寺を離れ、さすらいの物乞いになってしまいました。長い間、宗教的にも社会的にもお坊様に奉仕してきた信徒たちは失望しました。時が経つにつれて、地域の人々や若い男女達が秘密の聖地アガムに入ることができなくなってきました。このカバハというのはパタンに住むネワール族の宗教上の奥義をきわめた人のことです。お寺にアクセスできるのは由緒正しい家系の人々で、彼らはしばしば家屋にアガムという独自の礼拝堂をもっていました。そのカバハのお坊様がいなくなってしまったので、他の誰も信仰の道に入る手ほどきを行うことができなくなりました。聖地の秘密を打ち明け、由緒正しい儀式を行うことができる、ただ一人のお坊様は物乞いになって、立ち去ってしまったのですからです。

しかし、都合のいいことに彼らは素晴らしい金加工の技術を持っていました。金細工を献上し、彼らはパタンの王様に会うことができました。王様は彼らの芸術品に満足し、ある日「褒美に何がほしいか？」とお尋ねになりました。彼らはすかさず「王様、私達のお坊様が物乞いになってしまいました。私達はアガムに入ることができず、アガムが造作ないままに放置されています。どうかお坊様をさがしてください。」と頼みました。

「どうすればいいんだ？」と王様が尋ねました。

「もし王様が施し物するというお触れをだしたら、物乞いたちはきっと集まってくるでしょう。私達は乞食の中から本物のお坊様を捜します。」とネワール族の男が言いました。

彼らに言われた通り、王様は身を寄せる所のないすべての物乞いに施し物を与えるので、王宮に集まるように呼びかけました。

物乞い達が集まった時、王様はそれぞれ一人ずつに、なぜ人生をさすらっているのか尋ねていきました。そしてついに、親指につけていたリングで、くだんのお坊様を見つけ出しました。しかし、その物乞いは自分がお坊様であることを認めようとしませんでした。

そこで王様の命令により、その物乞いは牢屋に閉じ込められてしまいました。しばらくして、そこから自由になる道がないことに気づいた物乞いは、自分がまさしくゴールデンテンプルのお坊様であることを告白しました。そこで再び王様の命令により、その物乞いは元の生活に戻り、本物のお坊様になりました。

しかし、そのお坊様には妻がいなかったので、アガムの秘密を伝えていくことができません。そこでお坊様は結婚させられることになりました。結婚した後も、お坊様は若い結婚したカップル達の願いを受け入れて、秘密のアガムに入れました。しかし、お坊様に息子が産まれると、すぐにまた前の物乞い生活に戻ってしまい、パタンから姿を消してしまいました。息子は成長した後お坊様になり、父親がさすらいの人生のために打ち捨ててしまった伝統を受け継いでいきましたさ。

ううう、どこにでもいるんですねー。生まれつきのバカボンド、放浪癖がある人って。周りがどんなに引き止めても快適な生活より自由を選んでしまう。なんだかうらやましい気がしますが、じゃ、やってみれば？と言われるとやっぱり即答でノーですね（笑）渥美

♪ネパキチ　音キチ　大集合　ネパール:ミュージック★

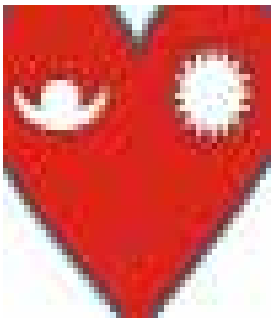
ネパールの音楽史は、カトマンドゥ盆地の先住民ネワール族の繁栄と共に発展してきました。歴代のマッラ王は様々な芸術に深い造詣に達した人々で、王朝の終焉まで文化の高揚に勤めました。またマッラ王朝を倒し、現在のネパール全土の基礎を築いたシャハ王朝も、高度に発展したマッラ王朝の文化や芸術を手厚く保護しました。演劇やドラマの BGM に使われる音楽は、そのままネパールの芸術として発展し楽器もネワール族が用いたものを受け継ぎました。

ネパールにおける音楽の近代史は非常に短く、カトマンドゥを中心に西洋的な音楽が入ってきて世に広まり、瞬く間に民衆の中に溶け込んでいきましたが、ネパールの公立学校ではいまだに音楽の教科がありません。日常歌われている民謡は、日本の祝詞（のりと）のような不安定な感じを与える不協和音がほとんどなく、ちょっと稚拙な感じがしないでもないのですが、協和的な感じでとても聞きやすいものが多いです。

音楽が広く民衆の中に浸透していったのは、なんと言ってもラジオの普及がひとつの要因です。
その担い手となったのが放送局。1952 年カトマンドゥで初めてのラジオ放送局が開設。それ以来、国営放送「ラジオネパール」はすべてのネパール国民の娯楽と情報の提供に努めています。
そこで流されている音楽のジャンルは、ネパールにルーツをもつ音楽が中心で、幾多もある FM ラジオ放送局と一線を画します。その中には様々なカーストの伝統音楽もありますし、吟遊詩人のサーランギ（ネパールの弦楽器）や、結婚式の時だけ演奏される音楽もあります。この結婚式の音楽は、たいてい赤と黒の軍服を着た楽師が奏し即興で行われるジャズのリズムが組み込まれています。

また、民族によって音楽が違いますが、飛びぬけて優れているのはグルン族の歌と踊りと言われていて、民謡に限らず流行歌やロック界でも卓越した技能を持つ人がたくさんいます。また、ネパールの音楽産業を盛り上げているのもグルン族です。

しかし、先祖のじいさん、ばあさんが歌っていた子守唄を再現するだけじゃつまんないと、独自の音楽を築いていくアーチストも急激に増えました。彼らが目指すのは純粋なロック。パンクのような世の中に反逆的な歌、「ヘイ、ヘイ、ベイビーおやじは寝たかい？今からいくぜ」と言ったパンクも毎日 FM ラジオから流れてきます。世界の風はネパールにも吹いている。でも「アンタらちょっとうるさいんじゃない！！」と注意すると「アッ、すんません」と答えが返ってくる。やっぱりネパールの人って純粋だから好き！



ネパールの歌謡曲を大衆文化にしたのは左の写真のおじさん、ナラヤン・ゴパール。歌謡界のゴッドファザー。中央 2 枚は人気バンドのシャドーズのライブ版。右はなぜかこれがネパールのロックのシンボルだそうです。

●NBSA 秋のスタディーツァー大募集　〆切迫る！！

ネパールのキラキラする瞳に会いに行こう
ネットニュースでお知らせしましたスタディーツァー　申し込みがいまいち！
ヒマラヤ山脈が最もきれいに見える時期　　ぜひご参加ください
日程　2010 年 11 月 11 日から 11 月 23 日（火）帰路機内一泊
総費用：23 万円
訪問地：カトマンドゥ盆地　ルンビニ　ポカラの盲学校視察
世界で最も失明率の高い南アジアの国々のなかで、ネパールの視覚障がい者が置かれている環境は悲惨を極めています。点字の識字率は 3%で、ほとんどの視覚障がい者は何の行政サービスも受けられずに生涯を終えます。しかしほんの少しでも学校に通える子どもたちの瞳は、白内障でもきらきらと輝いています。元気いっぱいに勉強する子どもたちに会いにきてください。
締め切り　１０月２０日
■ツァー申し込み先：NBSA 日本の事務局（川崎）
〒２８４－０００５　千葉県四街道市四街道１-９-３　視覚障がい者総合支援センターちば内
NBSA　電話:０４３－４２４－２５０１　Fax:０４３－４２４－２４８６

★フェアトレードショップからのお知らせ

今年も巡ってきます　ふかふか柔らかパシュミナの季節。

NBSA では、昨年 12 月に立ち上げた千葉県柏市の視覚障がい者を中心とする障害者サポート小規模作業所ポコアポコに、ネパールの民芸品やおしゃれグッツの販売をお願いしています。ポコアポコのスタッフはすご～く協力的。季節や流行に合わせたネパール製品を作業所内ばかりでなく、バザーなどでも積極的に販売してくれます。ポコアポコは本当に NBSA の心強い助っ人。今年爆発的に流行しているカラフルでエキゾチックなスカーフやショールが好評を得ています。そして 10 月からはネパール特産のパシュミナのストールやマフラーが並びます。また定番のネパール紅茶や、ヒマラヤの岩塩も人気者。ぜひ一度ご訪問ください。収益は NBSA に還元されます。たくさん買ってくださいね。ご協力のほどお願いします。
住所：千葉県柏市　松葉町　６－８－１
問い合わせは、ポコアポコ作業所　（電）０４（７１３６）０５０５へ

●ネットニュースのご紹介
月１回配信の NBSA ネットニュースはネパール現地の活動報告のほか、ネパール関連の様々なニュースを掲載しています。特に「時のネパール」はネパールの政情を掲載し渡航状況を知る上で便利。
ホームページ　NBSA：http://NBSA.sakura.ne.jp/

ネットニュース毎月の配信をご希望の方は直接カトマンドゥ事務所にインターネットでお申し込みください。NBSA@mail.com.np

Nepal　Blind　Support　Association（NBSA）
P.O.Box:8974　PCN-111　Katmandu　Nepal　Tel:977-1-4436-103
E-mail:　NBSA@mail.com.np　または　yorikonepal@hotmail.com
日本の事務局:
〒284-0005　千葉県四街道市四街道 1-9-3　視覚障がい者総合支援センターちば内 NBSA
電話:043-424-2501　Fax:043-424-2486　事務局担当者　高梨　憲司
NBSA　HP:http://NBSA.sakura.ne.jp/
維持会費：個人会員年間 6,000 円/協力会員年間 3,000 円/法人会員年間 15,000 円
振込先：口座記号番号 00190-7-762775（ネパールの視覚障害者を支える会）